

歯科技工部門より

歯科技工部門 荒井 秀明

はじめまして。診療支援部 歯科技工部門の荒井秀明です。「技工部便り」ということで原稿依頼をいただいたので、中央技工室の紹介をさせていただきます。

まずはじめに少しだけ自己紹介をさせていただきます。出身は群馬県で平成14年に新潟大学歯学部付属歯科技工士学校に入学しました。卒業後は研修生として新潟大学病院の技工室（現歯科技工部門）で1年間勉強させていただき、富山県の歯科医院とラボでの就職を経て、平成21年から当院で勤務し現在に至ります。

では、技工室の紹介をさせていただきます。前回長谷川さんが紹介していた通り、移転後の中央技工室は面積的には小さくなりましたが配置を工夫したり余分なものを断捨離して以前より効率よく作業が行えるようになったのではないかと感じています。ただ部屋の配置上しょうがないところなのですが、中央技工室には窓がついていません。換気がしづらいというもさることながら、自然光が入ってこないというのは個人的にはとても残念なところ です。

設備に関して前回の歯学部ニュースの時から新しく増えた機器を2つ紹介させていただきます。1つめは、歯科技工用高周波鋳造機アルゴンキャスターの導入です。正確に言うと技工室での導入

ではなく義歯診療室からの申請で導入されたものですが、共同で使用する目的で設置されました。設置場所も当初は主に使用する中央技工室に設置予定でしたが、置き場所の確保が難しいこともあり隣の先生方の技工室である共同技工室に設置されました。このアルゴンキャスターの導入によりコバルトクロム合金などを鋳造できるようになり、これまでパーシャルデンチャーのクラスプやバーなどでコバルトクロムの指示があった場合はすべて外注に出していたのですが、技工室でも製作することが可能になりました。

2つめは、ストロマンCARES CS2が導入されました。これによりストロマン社のインプラントでも、前回紹介したジェニオン2同様にレーザーでスキャンしCADソフトでデザインすることが可能になりました。

ここ数年で技工室に新しい機材がたくさん導入されている状況でも分かる通り歯科医療は多様化し新しい技術や材料、機器がどんどんできています。それらに対応できるよう常に知識や技術の向上にはげんでいくことが重要であり、日々勉強し成長し続けられるような技工士でありたいと思います。まだまだ未熟な私ではありますが今後ともよろしくお祈いします。

